

国内視察研修報告

農業委員

永田 次郎



七月二十四日・二十五日の両日総勢四十一名による国内視察研修を二泊二日につくば市の「中央農業総合センター」と「はだの都市農業支援センター」を視察しました。

茨城県 つくば市



独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構「中央農業総合研究センター」

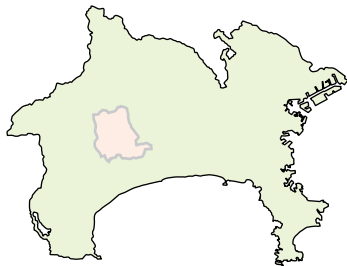
数多くの研究がなされてお



熱心に研修

り、その一部を紹介します。田植機の自動操作による無人化に成功、そのセンサーやコンピュータを使用して今後はトラクター、管理機、コンバイン等に共用が出来る様研究中でした。野菜などには「うね内部分施用機」にて畝たてし、必要などころに必要な肥料、土壌改良剤、施薬剤を散布注入して最小の施肥施薬にて栽培が可能。肥料では三から五割減にて栽培可能を目指しているとのこと。又、夏の炎天下においての農作業が快適に出来るよう、空調服が開発されており実用化されていました。

神奈川県 秦野市



その他にも、機械の行方不明や転倒などの追跡にコンピュータと携帯電話のセットにより追求できる装置の開発中であり、一連の農作業における農業機械の無人化・オート化による、安全省力化とコスト低減に向けた取組など、今後の農業に向けた革新的技術開発がなされていることを感じました。



新型農機具を前に

「はだの都市農業支援センター」

「はだの都市農業支援センター」は行政と農協が一体となって農地を守り荒廃農地の撲滅に取組んでいます。

秦野市・秦野市農業委員会・JA秦野市により、「はだの都市農業支援センター」を平成十七年に開設しました。

スタッフは六名で主な事業内容は農地の貸借、経営規模拡大に関する相談、利用権設定、荒廃農地解消の実践活動と市民ボランティアの会の活動です。

年に二回の「センターだより」も発行されており大変活発に活動されている事を感じました。



はだの活動研修

同センターで取組んでいる荒廃農地解消の取組は、全耕作面積の7.5%にあたる57haの荒廃農地の内6.7haが短期間に農地へ再生できたことは評価に値いするところ。この荒廃農地解消の実践においては、公募による約五〇名の市民ボランティアの皆様が大きな力であり、再生された農地の一部は担い手農家や新規就農者の農地として活用されているそうです。

また、有害鳥獣対策に対しても力を入れ、実施駆除は五月から十月の間に二ホンジカ他百頭余の捕獲実績との事です。